



天国のような庭と命の本

クライアントの体験談

The Heavenly Garden and the Book of Life – a client story by Chris Turner

天国のような庭と命の本 – クライアントの体験談

私がQHHTのセッションをしてもらったときに経験した、とてつもなく美しい「死後の世界」の話である。これは地球に来る前の、光の世界から学んだ最初のレッスンでもある。

QHHT プラクティショナーは、賢くて愛情豊かな Irina Nola であった。彼女のクライアントには、私同様、光の世界（死後の世界）を訪れた人は何人も居て、そこで色々な場所を訪れたそうだ。彼女が言うには「私はアカシック・ライブラリーという言葉を使用しないが、そこを訪れた多くの人たちはライブラリー（図書館）という表現を使います。他には「黙想の庭」、「学びの地」、「ホログラフィーの部屋」とか「コンピュータの部屋」等々がある」そうだ。私自身もそれら全ての場所に行きたいと思っているし、これからも多くのクライアントに行ってもらいたいと思っている。今回は、私がクライアントとして経験した話を紹介したい。私が経験した素晴らしさを、言葉で表現することは出来ないが、創造の概念として、これほど素晴らしくて見事で完璧なものはないといえる。それではお楽しみください Chris（フェイスブックでは Ras Namaste を使用）

QHHT プラクティショナー：何が見えますか？

クライアント：木と、太陽の光と、野原です、、、

Q： 貴方は（言葉をさえぎられた）

ク： **光です。たくさんの光が、至る所、、、全てのもの、、、から出ています、、、全てのものが光り輝いています。**

Q： 違う惑星に居るのですか

ク： **かなり違っています、はい。あの荒廃したように見える、、、かなり違います（そこに何か居るのを感じ取る）**

Q： 貴方はまだ乗り物の中に居るのですか？

ク： **乗り物からはとっくに降りています、乗り物は必要ありません、この場所に乗り物は必要ないのです。完璧な光です、完璧な木です、光です、全てのものが光です、全てのものが光を発しています、明るい、白い光です、輝いています。**

Q： 他に何か見えますか？

ク： **光り輝く野原と霧と、、、ただもう、、、信じられないほど、、、全てがです。**

「どの角度から見ても、、、私が向きを変えてみても、全てが完璧に見えます、何をどの角度から見ても全てが完璧なのです。光！（注：そこに見えるものに私は完全に圧倒されてしまっている。会話を続けていても、この素晴らしい光景から目を離せなかった、それはまるで神の目を見ているような感じだった、完璧な創造だ！野原の地平線には見事な木立が霧の中から見え、さらにその遠くの後ろには山の峰々が、青空の下に連なっていた。さらに青空には見事な形の白い雲が浮かんでいた。その全てが白い光を出して輝いていた。あまりの美しさに私は息を飲んで見つめていた。この世とも思えない美しさに打ちのめされてしまっていた）

Q： 立っている足の下には何がありますか？

ク： **草です。**

Q: 足を見てください。何か履いていますか？

ク: (少し笑う) はいサンダルです、サンダルのようにです (メモ: 私はなぜかダンダルが好きではない。私が選んで履いたものでないものを見るのは嫌な感じだ。光は私をからかったようだ) 何だか、、、ビーチサンダルのように見えます (笑う) 私はビーチサンダルなど履きません (ビーチダンダルは特に嫌いです - 奇妙です)。

Q: 足の指で挟むタイプですか？

ク: そうです、短い紐がついてます、そこが硬く、それだけです (全く嬉しくない)。

Q: どんな感じの衣類を着ていますか？

ク: そうですね、、、 (驚く) 白いローブです！

Q: 男性だと思いますか、それとも女性の感じですか？

ク: 男性です。

Q: 若いですか、年をとっていますか？

ク: 分かりません、、、それは (ここでの (訳注: 地球での)) 概念でしょう。

Q: 体は健康ですか？

ク: 軽い感じがします、、、体が軽いです。

Q: 貴方も光り輝いているのですか？

ク: ここにある全てのものが光り輝いています、、、全てのもので。

Q: 手に何か持っていますか？

ク: 左手に本を持っています、おかしいです。

Q: 何の本ですか？

ク: (無言)、、、

Q: 貴方はこの人だと思いますか？



ク: (長い間を取る - その世界に自分を合わせようとしている) ちょっとここに座っていれば、、、次元を下げろ (訳注: 3次元の人間になるよう自らに言っている)

Q: 周りに誰か居ますか？

ク: 人は居ますが、、、目に見えるものかどうか分かりません、、、分かりません。

Q: それは人が (遮られた)

ク: そこに人が居るのは分かるのですが、、、目に見えるかどうか分からないのです、そこを見るのですが、、居るのは分かっているのですよ (私は二人居るのを心の目で見た。一人は私の左に、もう一人は右に居た。よく見かける、明るい白い光の点として見えた。真ん中の私を含めると三人で直線が引ける。

Q: その本で何をするのですか？

ク: 今座ったばかりです、、足は組んでいます、、本を開きました、、 (間がある) 何か知りませんが、ブロックされている感じです、、よく考えられません、、頭が機能してないようです、、本の内容がぜんぜん頭に入ってきません！まるで、本に何も書いてないような気がします、、私が本のように。(私はまだ何かを経験するに必要な命を持っていなかったし、また未来が過去に影響を与えていたように見えた。そのため、過去のページが本に現れたのだった。これこそ正に、時間はただ一つ、「今」だけだということなのだろう)

Q: だんだんはっきりしてきますよ、本には何が書いてあるのですか？

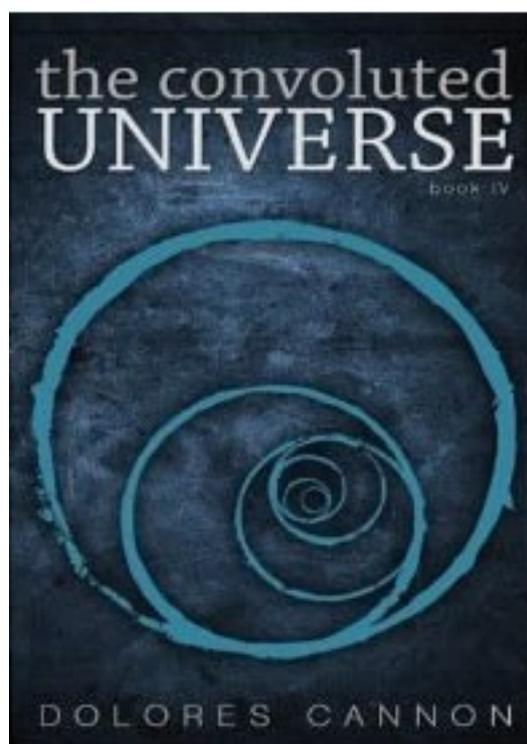
ク: はい。

Q: 絵は見えますか？

ク: はい、でも良く分かりません、それは、えー、分かりません、私に分かるかどうか分かりません、、文章があります。

Q: 文章と絵ですね

ク: 文章があります、、分かりません、、絵が暗くなってきました、、ちょっと待って、、待ってください、分かりません、説明できません、今まで見たことが無いものです、何て言ったら良いのかか分からないものです！ (後で分かったことだが、それはドロレス・キャノンが書いた *Convoluting Universe Book 4* の表紙に描かれた絵であった。その絵がはっきり分からなかった理由は、その本が出版されたのは2011年12月で、そのときは未だ2011年10月だったからだ。訳が分からない。私は自分の未来を見ていたのだろうか!?)



Q: どこに座っているのですか？周りに何がありますか？

ク: 草の上に座っています。私はローブを着ていて、ひざの上に本を置いてます。本の端はぎざぎざです！本のシームには金が使用されています。ですが、文章と絵は、、それか、あのページにあるあの絵は、、、あのような状態で見せられるはずのものではないと思います。

Q: その本について説明してくれるような人は誰か居ませんか？

ク: 私たち全員が本を持っているようです。皆一冊持っています、皆本を持っています。本には何も書いてないのかもしれませんが。後ろ向きにページをめくるといいのかもしれませんが。そうすると何かが書かれるようです。ページをめくっているとそれが分かります。単語が全てのページに出てきます、でも全てはただのシンボルのようです。

Q: ページに何があるのか教えてください？

ク: これは教えることではなく、ただ体でそう感じるだけなのです。これは経験するものだと思います。

Q: 何を感じているのですか？経験て何の経験ですか？

ク: よく分かりません、密度か、圧力か、、、はい、、、それが私の頭に何らかの影響を与えています、、、この肉体の頭にです。

Q: 立ち上がって歩き回ることは出来ますか？

ク: できますよ、、、はい、すぐに出来ます、私は軽いのです(笑う)パッと立ち上がりましたよ、体がありませんので。

Q: 周りに建物がありますか？

ク: 建物の必要はありません、全く無いです。

Q: 貴方はその人だと思えますか？

ク: そうかも知れませんが、未だ学ぶべきことはたくさんあります。

Q: どこに行って学ぶのですか？

ク: 命です、、、命を持つのです、、、経験です、そのために命を持ちます、、、(長い間)もう時間だと思えます、すべての人がここに滞在するわけではないのです。

Q: 命を持ったなら何をしますか？

ク: 勉強です、私は勉強をしています、、、人生を始めたら、その一步一步でどのようにして本が書かれるのかを勉強していたと思えます。一步一步の情報が本に記録されるのです。毎分、毎秒過ぎるたびにその情報は本に記録されます。

Q: それは貴方の本ですか？

ク: 多分そうだと思いますよ、はい。だからみんなが一冊ずつ持っているのだと思えます。

Q: 貴方の本だったら解釈できますね。

ク: それは一つの経験です。過去は学びの為でした、はい。

Q: その本には全ての過去が書かれているのですか？

ク: 1000分の1秒分も漏らさず記録されています。

Q: 全ての人生についてですか？

ク: 全ての経験です、、、全ての時代の、全ての時間です(時間=命)

Q: それは大きな本ですか？

ク: (笑う)一番大きな本ですよ、、、最大の本です!でも手で持てるものです。それはまるで永遠に続く本のように、永遠に続く本です。ページの数はずっと増えていきます。でも全ての本を集めると、それが一つになるのです。

Q: その本はどこから来たのですか？

ク: それは、、、どちらかというところレコーディング器具のようです。実際に、本はただの比喩だと思います。ただのレコーディング器具のようです。

Q: どうして貴方は本を持ってそこに居るのだと思えますか？

ク: レコーディングがどのようにして行なわれるのかを理解するためだと思えます(どのようにして未来が作られるか)。その方法です、、、見るためです、、、見るためです、、、どのようにして本が出来上がっていくかを見るためです。

Q: そうした知識を得たのですか？

ク: その知識を得ました、経験をしました、本が書かれました、、、本は、、、永遠です、、、常に成長します。生きている本です。生きているタペストリーの一部です。全ての本が織物の糸のようになって織られてタペストリーになっていきます。そしてそれが

「アカーシャ」になるのだと思います。全ての生きている本が織り成したタペストリーです。ですので同じことだと思います。

Q: その本を開いて、ページをめくってみて、見えるものを教えてください。

ク: そうではなく、何を感じるか、でしょう？それは感じ取るものです、見るものではありません。言葉は何も意味ありません。実際それは(意味不詳)の半分(遮られた)

Q: その貴方の本のそのページで何を感じますか？

ク: かなり軽いです、かなり重たいです、かなりエネルギーが入っています、、、どの命の力が来るのかわかりません、、、それは、、、(私はその時、そこに充満する光のエネルギーは、ある源、ある方向から来ているように感じられた)

Q: その感じを覚えていますか？

ク: 暖かいです、暖かくて電氣的です。

Q: その瞬間を覚えていますか？その記憶を感じることは出来ますか？

ク: はい、先ず感じに来るのを待ちます。最初に感じるのがそれです。本を読む必要はありません、本を見ずにページを開いて感じるのです、本にある感じですが。その後で感情を経験するのです。それに波長を合わせれば、他の見方も出来ます。ただそれを見さえすれば、、、多分、、、それが分かるのです、、、それを見ることによって焦点を合わせる練習ができると思います。シンボルは何も意味はありません、、、ですが「感じ」は意味を持っているのです。

クリス・ターナー記 誉田光一訳

Published by - QHHT Practitioner: Chris Turner (on Facebook)

Learn Regression Healing [Click Here](#) for more information

QHHT Practitioners Web Site: www.QuantumHealingCentre.co.uk

© 2014-Ad Infinitum - All Rights Reserved

